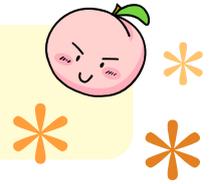


お茶のお話（中）



みなさん、こんにちは。新緑がまぶしい気持ちの良い季節になりました。今日は、お茶のお話です。

「夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉がしげる あれに見えるは茶つみじゃないか・・・」という歌を聞いたことがありますか。

この「八十八夜」は、立春である2月4日から数えて、88日目のことです。昔の人はこの日を、夏のしたくを始めたり、田植えの準備をしたり、種をまくなどの農作業の目安にしていました。

そして、歌にあるように、八十八夜のころに、その年初めて育ったお茶の新芽をつみます。初めてつんだ若い葉で作ったお茶を「新茶」といいます。新茶は、さわやかな香りで、しぶ味が少なく、うま味とあま味がたくさん入っているのが特徴です。新茶を飲むと、一年間元気に過ごせるといわれています。

また、お茶の葉には、病気に負けない抵抗力をつける「ビタミンC」が多く含まれています。

今日は、粉にしたお茶の葉を、ささかまぼこにつけて、油であげました。きれいな薄い緑色と、ほのかなお茶の香りを楽しみながら、いただきます。